

So-TEN-Ken

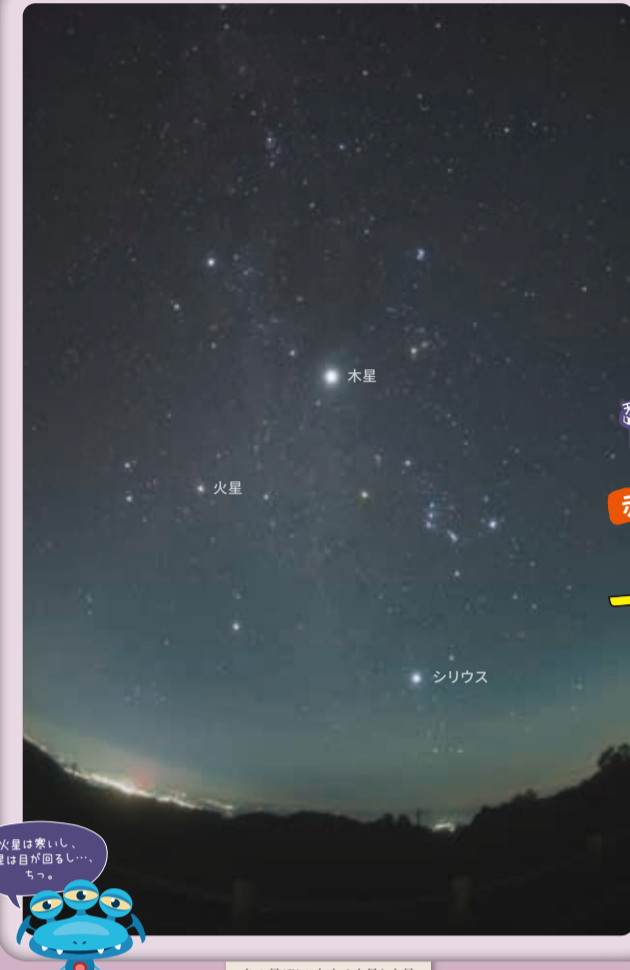
冬
VOL.93
2024-2025 WINTER



身近なところで冬バードウォッチング

天体望遠鏡のページ So
天体望遠鏡のページ TEN 火星シーズンがやってきた!
赤い火星と木星を一緒に観察しよう

素敵な星夜神話 ふたご座と流れ星と DESTINY+



冬の星ばしに加わる木星と火星

NEWS
12月12~14日はふたご座流星群
月が明るくても、きっと見える!? テク
2024年12月から2025年2月の天文カレンダー/惑星ガイド



顕微鏡のページ Ken
食べ物の中に大量の針!? イガイガ味の正体を見てみよう!

アンケートでプレゼント
書籍「なぜ彗星は夜空に長い尾をひくのか」

新製品
超広角双眼鏡「SW」 ¥35,200・¥37,400(税込)
艶消しアースカラーが美しい、双眼鏡を超えた双眼鏡。見える範囲が広く、長時間のぞき続けても疲れ知らず。

ライブのマストアイテムとして双眼鏡を使いこなす貴女に、ぜひ手にとって欲しい双眼鏡を作りました。広角の上をいく「超」広角の視野は広い範囲を見渡せ、「双眼鏡をのぞく→双眼鏡をはずす→のぞく→はずす...」といった手間をかけさせません。ライブの間、長い時間、双眼鏡をのぞき続けてもとにかく疲れにくい細かな配慮を随所に盛り込んでいます。

- 接眼レンズと目の距離を長めに設定しているため、目が疲れにくい
- レンズコーティングを高品質にし、明るく鮮明に見える
- のぞく側のレンズを大きくし、目の疲労を軽減
- 指のかけり具合に沿ってくぼみを持たせた、持ちやすさ重視のホールド感
- 小雨の中の野外ライブもOKの防水仕様
- 倍率8倍の「SW 8×25WP」と10倍の「SW 10×25WP」の2機種があります

プレゼント
アンケートでプレゼント
So-TEN-Ken WEB版の応募フォームに必要事項をご記入の上、ご応募ください。抽選で4名の方にプレゼントを差し上げます。

書籍「なぜ彗星は夜空に長い尾をひくのか」
「彗星とは何か?」というテーマに始まり、宇宙を旅する彗星の起源や行方、彗星の美しい姿の解明など、テーマに解説。2024年秋に話題となった紫金山-アトラス彗星の話題も。国立天文台 渡部潤一 著。誠文堂新光社刊。

右のQRコード(https://www.vixen.co.jp/lp/so-ten-ken/vol93/h4_present/)から応募フォームに必須項目をご入力の上、送信してください。
●締め切り.....2025年2月末日
●当選発表.....So-TEN-Ken Vol.95 2025月号(2025年6月1日発行予定)にて発表いたします

ご応募いただいた方の個人情報は、プレゼントの抽選、当選発表、賞品発送以外の目的には使用いたしません。また個人情報をご本人の許可なく第三者に譲渡、提供することはありません。

オススメ
Vixen WEBサイト「社員紹介」

「あの天体望遠鏡や双眼鏡はどんな人たちが作っているの?」Vixenの中の人たちのインタビュー、部活動の様子などをWEBサイトで公開中。業務でのこだわりや入社して感じたことなど、社員の本音をたずねたアンケートは、これから就職する学生さんにも、仕事に疲れ切った人々にも、一見の価値アリ。「Vixen社員だけど星のことは聞かないで」って...えっ???

お知らせ
So-TEN-Ken がWEBでも読めます
So-TEN-Ken WEB版も公開中。最新号だけでなく、バックナンバーも読むことができます。PDFをダウンロードしてプリントアウトも可能。パソコンはもちろん、スマートフォンやタブレットでもいつでも気軽にSo-TEN-Ken。見る楽しさが、またひとつ身近になります。
https://vixen.co.jp/so-ten-ken

子供の科学
身近なサイエンス、楽しい実験と工作、自然科学の「やさしい入り口」
毎月10日発売 B5判 通常定価770円(税込)
発行:(株)誠文堂新光社
https://www.kodomonokagaku.com/

月刊天文ガイド
観測、写真、毎月の天文現象など、初心者からベテランまで天文ファン必読。
毎月5日発売 B5判 通常定価1,100円(税込)
発行:(株)誠文堂新光社
https://www.seibundo-shinkosha.net/tenmon/

株式会社ビクセン
〒359-0021 埼玉県所沢市東所沢 5-17-3
TEL:04-2944-4000(代) FAX:04-2944-4045
光学機器のことならビクセン https://www.vixen.co.jp

Facebook (@tonakaifanpage) / X (旧Twitter) (@vixen_japan) / YouTube (VixenOfficialMovie) / Instagram (vixen_japan_official)
723-11-8999-3MSB-1B-(V) (E)
株式会社ビクセンは1949年に創業。以来、世界初一般向け天体自動導入装置付き望遠鏡を開発するなど、日本を代表する光学機器メーカーとして活躍の場を開拓、提供してきました。社名の「ビクセン」は、クレメント・ムアの詩集に登場するナイフの名に由来しています。サンタクロースのそりをひく「ビクセン」、世界中の子供たちにプレゼントを届けるサンタクローストナカイになぞらえて、「みなさんに幸せや感動を届ける会社になりたい」という願いが込められています。「So-TEN-Ken」は「双眼鏡」の「So」が「目」を、「TEN」が「目」を、「Ken」が「目」を意味する。これら3つの「目」が「目」を意味する。これら3つの「目」が「目」を意味する。これら3つの「目」が「目」を意味する。

顕微鏡のページ Ken
食べ物の中に大量の針!? イガイガ味の正体を見てみよう!

顕微鏡のページ Ken
食べ物の中に大量の針!? イガイガ味の正体を見てみよう!

双眼鏡のページ So
身近なところで冬バードウォッチング

双眼鏡のページ So
身近なところで冬バードウォッチング

So-TEN-Ken
冬バードウォッチング

SO-TEN-Ken

天体望遠鏡

TEN

NEWS 12月12~14日はふたご座流星群 月が明るくても、きっと見える!? テク

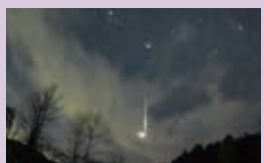
三大流星群の1つ、「ふたご座流星群」は活動期間中の流星出現数No.1! 今年最大の(※2)は12月14日10:00頃ですが、放射点(※3)であるふたご座の高度が最も高くなる夜中11:30前後が狙い目。

オスメ1 12月13日夜~14日夜明け前 オスメ2 12月12日夜~13日夜明け前

ただし満月直前なので、月が視界に入らない方向を眺めるようにしましょう。月が建物などで隠れる位置で見るといいですね。流れ星をたくさん見るコツは「目を夜空の暗さに慣らす」こと。すると流れ星のようどこに現れるかわからない強い光に気づきやすくなります。そのために、

テク1 月や街灯のような明るい光を視界に入れない テク2 数十分以上は暗い夜空を眺め続ける

ふたご座流星群は「流星」と呼ばれるとびきり明るい流れ星が多い流星群。月をうまく避けることができれば、意外とたくさん流れ星に出会えるかも… ※2…流れ星が最もたくさん出現するとき ※3…地球から見るふたご座流星群の見出しとなる位置。



ふたご座流星群の流星 明るい星は木星、上方にアルデバラン星。撮影:©井川俊彦(2023.12.14)

火星シーズンがやってきた! 赤い火星とベージュの木星を一緒に観察しよう

今冬は夜空を見上げると、火星と木星、そして全天一明るい恒星のシリウスが大きな三角形を描いています。約2年2か月ごとに地球に近づく火星と、約1年1か月ごとに地球に近づく木星が同時に見られるチャンスです。

まずは空を見上げてみよう!

晴れた夜に、まずは肉眼で空全体を見渡してみよう。一番星の金星が沈んだ後、最も明るいのは木星(-2.8~-2.4等)です。12月ならだいたい22:00以降、1月なら19:30以降、2月は18:50以降であれば、火星も見えていて、木星と火星、おおひぬ座の1等星シリウスを結び大きな三角形が描けます。イラストAのようにシリウス-ペテルギウス-プロキオンを結んだ冬の大三角よりも、ひとまわり大きな三角形になります。火星・木星・シリウスがみつかったら、色を比べてみてください。火星は赤(オレンジ)色、木星はベージュ、シリウスは青白く、星に色の違いがあることを肉眼でも感じるができます。



木星と火星、プレアデス星団、ヒアデス星団の接近 撮影:©井川俊彦(2024.8.13)

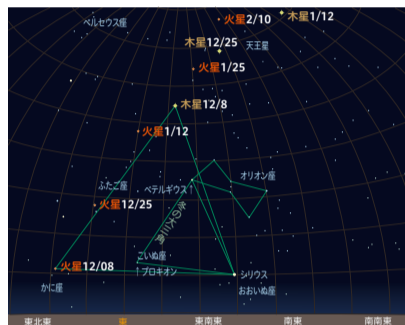
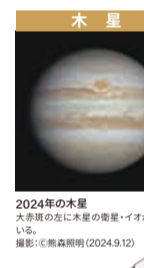


Figure B: A table showing observation times for Mars and Jupiter in December, January, and February. It lists rise and set times for both planets.

天体望遠鏡で火星と木星を見てみよう



1月16日、火星が衝[しょう]となります。衝とは太陽-地球-惑星が一直線に並ぶときで、その惑星を観察するのに最もオスメの時期。地球との距離が近く、ほぼ一晩中、空に見えて観察できる時間も長くなります。口径80mmぐらいの屈折式天体望遠鏡で高倍率(150倍ぐらい)にすれば、火星の表面の様子がみられるかもしれません。見え具合は大気の状態などによって変わるので、1度見てイマイチだったとしても別の日に何度か試してみよう。火星の北極あたりには、北極冠[ほっきょくかん]と呼ばれる場所が白く輝いて見えるかもしれません。また大ジャシュペリスという名の黒っぽい部分もわかるかも。



木星の衝は12月8日です。天体望遠鏡の倍率が70倍くらいでも、2本のベルトのような縞模様や木星の赤道付近に見えます。木星の4大衛星であるガリレオ衛星を周回してみましょう。縞模様の上空を周回するような位置にボツボツと見えるはず。木星の向こう側に回り込んでるときもある、1つめ4つ見えるとは限りません。最も早い衛星は約1.8日で木星を1周、最も遅いものでも約16.7日で1周します。

Advertisement for the Polaris A80Mf telescope, priced at ¥77,000 (tax included). It features a 80mm objective lens and 910mm focal length. The ad includes a photo of the telescope and a 'Planet Book'.

Advertisement for the Polaris A80Mf telescope, highlighting its features like the 80mm objective lens and 910mm focal length. It also mentions the 'Planet Book' included with the purchase.



この星図は東京を基準として以下の日付時刻の夜空を表しています

Table of observation times for Mars and Jupiter in December and January, listing dates and times for both planets.

2024年12月~2025年2月 天文カレンダー

A detailed astronomical calendar for December 2024, January 2025, and February 2025. It lists celestial events such as conjunctions, oppositions, and meteor showers, along with recommended observation equipment like binoculars and telescopes.

Advertisement for the DESTINY+ probe, featuring a story about the myth of Castor and Pollux. The text describes the probe's mission to study the Castor-Pollux star system and its potential for discovering habitable planets. It includes a star chart of the system and a photo of the probe.

Table titled '惑星ガイド' (Planet Guide) providing key data for Mars, Jupiter, Saturn, Uranus, and Neptune. It includes columns for planet name, date, phase, magnitude, and observation direction.